

CASE
10

中野市

新IoTサービスによる システムインテグ レータへの取り組み

EMSベンダー合同会社

事業内容 メガソーラーの設計、施工管理、運用

企業 data 代表者：小林 秀樹 所在地：中野市大字草間1048番地8
従業員数：4名 連絡先：https://portero.co.jp/

Introduction

当社は、2013年、メガソーラー（太陽光発電所）の設計を主要事業としつつ、関連機器の販売やメガソーラーの監理コンサルティングを行う会社として設立。現在は自社所有のソーラーも数か所設置し事業展開している。

企業の現状 及び 支援の経緯

メガソーラー発電による電力の固定価格買取制度においては、その調達価格が年々減少。また、メガソーラーの設計施工や売電事業には新規参入も多く、市場環境は構造的に厳しい状況である。加えて、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言や外出自粛要請がメガソーラー建設へも影響。当面の売上減少が発生していた。

以上の現状事業の市場環境から、当社では財務体力があるうちに新規事業の創出を模索しており、既にAI活用/IoTデバイス事業化・開発センター（長野県工業技術総合センター環境・情報技術部門）（以下「AI/IoTセンター」）による新規事業開発の伴走支援を受けつつ、「キャンピングカー等向けの駐車場貸出及び電源供給を行う事業者を支援するためのIoT機器及びシステムの開発・事業化」に着手していた。

実施した支援内容

当社では、既にAI/IoTセンターの支援のもと、機器及びアプリケーションの初期試作を実施し、基本的な動作原理の確認は完了していた。以降は、当該試作の成果を基に実証実験を行い、上市する商品・サービスまで改良する段階となっていたが、進めるには実験用の機器・システムの開発・改良に必要な資金の調達が課題となっていた。

そこで、当センターが認定経営革新等支援機関として「中小企業等事業再



構築促進事業」への申請を支援。支援においては、当該補助事業の申請に求められる、「強み」「弱み」「機会」「脅威」の整理による事業再構築の必要性の提示や、事業化後の販売先及び販売目標、更にはそれに基づく収支の数値計画の策定を行うべく、当該企業、AI/IoTセンター及び当センターでディスカッションを重ね申請書への落とし込みを行った。

支援の結果 及び 今後の展開など

当該補助事業の第2回公募において採択となり、実験用の機器・システムの開発・改良を実施。既に長野市内において「ステイポートながの」（実証

実験場所）が稼働を開始している。今後は、実証実験結果をサービスに反映していくとともに、実証実験先兼サービス販売先の開拓を強化していく予定であり、既に最初の展開先との協業について具体的に進展がみられている。

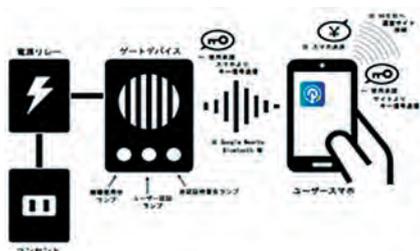


【実証実験の様子】

支援をうけて

代表社員 小林 秀樹 氏

異分野・異業種への取り組みのため全くのゼロからのスタートでしたが、AI/IoTセンターのご支援に始まり、資金面での当該センターや振興センターによる各種助成金申請支援等、多岐にわたりご支援頂き大変感謝しています。今後も更なる事業拡大と技術の拡充を進めていく所存ですので、ご指導・ご支援のほどをお願いします。



【サービスのイメージ】